

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 発題4 国語力アップ講座の成果と課題

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川原, 尚子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001326">https://doi.org/10.57529/00001326</a>

〔発題4〕

## 国語力アップ講座の成果と課題

國學院大學人間開発学部国語力アップ講座特別講師 川原 尚子

### 「国語力アップ講座」表現編における取り組み

皆さんこんにちは。川原尚子と申します。宜しくお願い致します。私は大学で「文章論」という学問を学びまして、公立中学の教員として働いておりました。「文章論」を教育の現場に持ち込んで、生徒たちが楽しく作文を書けるようになるなどと思いつながり実践をしていたのですが、今は退職して、小学生、中学生、高校生の作文と小論文の指導を行っております。生徒たちの書いたものを添削して、それをお返しするという仕事をしております。



ですから、自分としては書いたものをどのように添削して書かれた人に返すのが良いのか、どう添削して書く力をつけられるのかということに非常に興味を持っておりまして。今回、御縁があつて、國學院大學で「国語力アップ講座」を開くということでお声を掛けていただき、平成二十五年度からこの講座に関わっております。語彙・

語句編と表現編に分かれているのですが、私の方では表現編を三年連続持たせていただいて、その中で実践したことを今日は皆様に御報告して、成果と課題についてお話ししたいと思っております。

私は、この表現編の講座で主に三つのことを考えて講座を進めています。まず一つは八百字の小論文の構成を考えて書く力をつけることです。二つ目は自分の考えを論理的に正確に伝える力をつけることです。三つ目は、書くことが好きになった、書いて良かったというふうに学生の皆さんに言ってもらえるような、そういう講座にしたいと思って取り組んで参りました。

### 平成二十七年度における実践

まず、平成二十七年度の講座は、後期でしたので十月十五日から十二月十七日までの九回行いました。一番初めに自己紹介の文というものを書いてもらいました。これは作文で、小論文ではありません。「皆さんに読んでもらうということを書いて自分のことを紹介して下さい」という内容で四百字で書いてもらいました。次の授業時には、「自分の好きなものを友達

に推薦する文章」を四百字で書いてもらい、これも皆さんに読んでもらいました。私の方では、作文を添削をして、次の時間に学生の皆さんにお返ししています。

添削は、誤字、文法上の誤り、語句が適切かどうか、段落の構成が適切かどうかという点を見ました。自己紹介文であっても、やはり段落の意識があった方が良いと思って指導しました。それから、文章全体で考えがしっかりと書かれているかということに注目して指導しました。そして最後には公葬を書き、必ずその人の文章の良いところと、ここを直すところと良くなるという助言を書いてお返ししました。

今回、学生の皆さんから、「文章を書いて提出しても、何も反応がなくて、どうなったのだろうと思う」と言っているのを聞きました。たとえばどんなに拙いコメントでも良いので、「こういうふうに読みました」と書いて返却するということが、文章力をつけていく上で非常に重要になると思います。また、読み手である私が、「こう読みました」と伝えることで、自分ももしかしたら正確に伝えられていなかったのかもしれないということを実感できます。まず自分のことを気軽に気持ちで書いてもらうために作文を講座に入れて学生の文章力を判断し、どういうことに興味を持っているのかを知り、教材を選びました。この年は全員が教員、保育士志望でしたので、新聞記事や、様々な雑誌の中から、将来の仕事の役に立つような記事を選んで授業の中で扱いました。

まず、小論文を「序論・本論・結論の三段構成で書いてみよう」ということで、問題に対して賛成か反対かはっきりと意見が述べやすいような題材を選びました。一つは、「幼稚園でタブ

レットを持ち込んで、それを使うことについてどのように考えるか」。もう一つは、「運動会、体育祭で組体操を行うことについて皆さんはどのように考えますか」という内容です。新聞記事を読んで自分はどうのように考えるのかを書いてもらいました。その時に、自分の考えの理由についても書いてもらいました。組体操の問題については、実際に講座の中でみんなが話し合いなどとして書きました。あえて二つ題材を出したのは、多くの新聞記事や文章を読む機会に触れるということと、自分はどちらの記事により一層強く興味を持っているのかということとを判断していくということのも視野を広げるのに有効ではないかと思つて用意しました。

次の実践では、賛成か反対かだけでは簡単には結論の出ないような問題を取り上げました。一つは、「学校で動物を飼育する」という内容です。幼稚園、小学校で動物を飼育する場合、アレルギーの問題や、都会の中で非常に飼いきにくいという状況があります。それについて「あなたはどう思いますか」と問いました。もう一つは「学校に登校出来ない子供の居場所についてどのように考えるか」という新聞記事を持ってきて、今度は四段構成で書くように指導しました。起承転結で、本論が二つの段落になることによって、自分とは異なる立場の考えにも触れられます。さらには、自分の考えが必ずしも全てにおいて正しいとは言えない場合もあるということにも触れる訳です。そうすることで、より文章が展開していきます。四段落の構成にすることで自分の考えが深められていくのだということを学生の皆さんに是非感じて欲しいと思いました。

次に、今度は幾つもの資料を渡して、その資料の中から問題

を発見して、それを組み立てて自分の考えを述べることに挑戦してみたいと考えて「日本の貧困」について取り上げました。表、グラフにも目を向けるため、出来るだけ多くの資料を渡しました。学生の皆さんにも「日本の貧困」について行いますということとは事前に言っていますので、興味・関心のある記事を持ってきてもらいました。問題を考えていく中で、「一つの疑問については一枚のカードに書く。一つの自分の考えについては一枚のカードに書く」ことを行いました。カードをたくさん集めて、それを基にして自分がどういうことに興味があるのかを発見し、そのカードの中でどれを取り上げて小論文にするのかを考えてもらうというを行いました。

実際に取り組んでみると固定概念から、貧困はいけないとか、何とかするためにもっと国がするべきだという、自分の思い込みによって資料を仕分けてしまうという傾向が見られました。しかし、他の考えもあるということで、友達の取り上げたカードも見ながら、その中から問題を発見してもらいました。非常に難しい問題だったのですが、みんな立派に書き上げて、小論文は吉永安里先生が印刷して学生の皆さんに配って下さいました。この取り組みは、たいへんでしたが、良かったと思っています。

この年、翌年への課題として、二点考えたことがあります。まず、一つ目は、ある一つの漠然とした問題の中から、どれを自分を取り上げて、どのようにそれを文章にしていくのかとしていくのかということを考える力が少し弱いと思いました。実際にこのことは難しいと思うのですが、卒業論を書くときや、社会人になって何かを行っていくときに、この力が実は非常に

重要だと思ったので、強化したいと考えました。それからもう一つは、文章を展開する力が弱いと思いました。考えは非常にみんなしっかり持っているのですが、それを効果的にどのよう  
に結論に導いていくのか、論理をどう積み重ねて読み手を説得していくのか、その力をつける必要があると思います、是非その二点を平成二十八年度の講座を通して実践していきたいと思  
いました。

#### 平成二十八年度における実践

今年度は、西川潤先生の『データブック貧困』というテキストを使って一年間勉強しています。岩波ブックレットなのですが、この本を毎回読みながら、章ごとに問題を出して、書いてもらったものを提出してもらって、また、それを添削して返却することをやっているのですが、実際のところ自分自身が経済に明るくないので苦労しています。ですが今回、この『データブック貧困』を読むことで、アメリカの大統領選や、イギリスのEU離脱の問題について分かる部分があつて良かったと思っています。

今年度は「語彙・語句編」から「語彙・読解編」と講座の名前が変わっています。前半は主に、このテキストをしっかり読むことを大切にしています。後半は表現編ということで、これを題材にしながらか論文を書くことを中心に行っています。気をつけているのは、一問一答形式にならずに、現在の貧困の問題とも関わらせて、このテキストを読みながらみんな貧困の問題について考えていくことを意識して講座を進めています。

特に苦勞したのは、ある二つの図を取り上げて、その図を見て共感したこと、考えたこと、疑問に思ったことをはっきりとさせて、その根拠を挙げながら小論文を書くという内容です。まず図やグラフがしっかりと読めないために、非常に苦勞しました。問題を考える前の段階で、図の意味がよく分からない、という状況でした。じっくりと図を読むことに時間をかけて、「この部分に注目してみましょう」「これは実際の生活の中でどうでしょうか」ということを投げ掛けながら取り組んでいきました。問題を自分で発見して、それを自分の考えでしっかりと八百字で書くための取り組みとして行ったことです。まだ今年度が途中なもので、皆様にきちんと御報告出来ないのですが、今はそういう段階で取り組んでいます。

学生の悩みとして、文章を書いていて、学生が自分が考えていたのとは違った小論文になってしまっているということが何回かありました。書いているうちに内容が掘り下げられていって、着地点が違ってしまったということです。書いてはみたもののこの小論文で良いのかと自身がなくなり、提出しないで過ぎる学生もいました。それは実際に書くことよって考えが深まって、初めの考えとは違ったからなのだというので、もう一度書き直しをするように勧めています。その都度、こういうところが深まって良かったというアドバイスをしながら、出来るだけ丁寧に進めていくことが必要なのではないかと思っています。

学生の皆さんに「どういうことで悩んでいますか」と聞いたときに、「自分の伝えたいことをきちんと取捨選択して伝えられない」とか、「長々とし過ぎてしまう」という悩みが出てき

ました。今後も文章を展開する力をつけることと、問題を発見する力をつけるという二点に注意しながら学生の皆さんのお役に立てるように取り組んで参りたいと思います。どうもありがとうございました。

